

66 京都大学整形外科教室初代教授

松岡道治先生の業績

廣 谷 速 人

明治三二（一八九九）年九月に創設された京都帝国大学京都医科大学に整形外科教室が設置されたのは、今から九八年前のことである。

松岡道治先生は明治三四年、東京帝国大学医科大学助手から京都帝国大学医科大学外科助教授に任ぜられた。明治三五年八月、矯正外科学研究のためドイツ留学を命じられた先生は、明治三九（一九〇六）年五月一日に帰朝、同月二三日に整形外科講座主任に任ぜられ、六月二三日から講義、診療を開始した。ここにわが国初の整形外科講座が名実ともに発足したのである。

明治四〇（一九〇七）年、松岡先生は教授に昇任した。先生は大正三（一九一四）年に依願免官したので、京大での在任期間はわずか八年に過ぎない。

昨年（平成一五年）は先生の五十回忌であった。また京都大学整形外科教室創設百年を明後年にひかえた今日、初代教授松岡道治先生の学会、社会に残された足跡をできるだけ詳細にたどることは、意義あることと考える。

松岡先生に関しては、従来同門の間ではいろいろな話題が提供されてきたが、先生の業績についての系統的な調査は今日まで行われていない。今回改めて先生の業績を調査することができたので、その結果を報告したい。

先生には邦文発表の論文が一〇〇編以上あり、独文論文が一七編、邦文著書七冊、独文著書一冊を数えることが、今回の調査で分かった。

先生はわが国整形外科の樹立と普及のために、生涯尽力した。とくに当時最先端技術であったエックス線写真による骨関節疾患の診断については、帝国大学卒業（明治三〇年）以来興味をもち、それに関連する業績が多い。なかでも先天性股関節脱臼、脊椎カリエスについては、当時の日本外科学会などで論述を重ね、盛んに討議した。これらは邦独文の著書としてまとめられている。

加えて先生は、一般市民を対象とした当時の新知識啓蒙講演会（調査しえた限り、少なくとも二回）で他専門領域の権威者とともに演壇に立ち、とくに個人ならびに環境の衛生問題について講演している。これらの口述内容の四編が二冊の書物に印刷されて残っていることを確認した。

先生の学問的活動は明治四一年から四二年にとくに突出しているようにみえるものの、短い学究生活の間に多数の和独論文を発表し、さらに社会的にも活躍した先生の学問的情熱には、改めて敬服するほかはない。

（宏仁会 寺岡整形外科病院）